使徒の働き　第19章　8～9節

「それから、パウロは会堂に入って、三か月の間大胆に語り、神の国について論じて、彼らを説得しようと努めた。しかし、ある者たちが心をかたくなにして聞き入れず、会衆の前で、この道をののしったので、パウロは彼らから身を引き、弟子たちをも退かせて、毎日ツラノの講堂で論じた。」

説得しようとして務めた道がののしられます。かつて、この道の者たちを追いかけてののしり、脅かし、殺意にさえ燃えていた者たちの道です。今は、自分がこの道を歩むことになり、この道を人々に説得する者となりました。今はこの道にとらえられています。この道がパウロのただ一つの道となりました。パウロのすべてがこの道を歩むためとなりました。会衆の前でののしられても弁解することなく、ののしる者たちから去り場を換えてこの道を語り続けます。

この道は語る者を造り、この道の宣教者とします。誰にでも、その人なりの道があります。公務員には公務員としての道、銀行員には銀行員の道、漁師には漁師の道、農夫には農夫の道、とりあげればきりがないほどです。人の数ほどあるともいえます。そして、ハッキリすることは、その道を歩んで来た者の面構え、歩き方、人格が道と深く結びついていることです。その道一筋の人生には誇りさえ見えます。そして、最も誇るべき確かな道は、この道です。

2022年６月６日